

第56回全国青年農業者会議で農林水産大臣賞を受賞

おいでみず たくま
若手農家 **大出水 拓磨** さん(32)

人と人とのつながりを大切に みんなで小林の農業を盛り上げたい

小林の農業の未来を担う若手農家が集まり、研究や情報交換などを行う小林市SAP会議。その一員である大出水拓磨さんは、全国青年農業者会議のプロジェクト発表で、最高賞である農林水産大臣賞の栄冠を手にした。

大出水さんはお茶と大根を栽培する農家。今回、9月中旬から10月中旬の繁忙期の作業効率化を目指し、茶畑の耕運と地中への液肥の散布を同時に行う機械を自作した取り組みを発表。1年半にもおよぶ研究で、経費を抑えつつ収量の増加につながった実績を証明し

たことが評価された。

子どもころから実家の農作業を手伝っていた大出水さん。高校卒業後は、修行のため日本一のお茶の産地静岡県で就職した。

「日本トップレベルのお茶農家に出会い、その栽培の難しさを学んだ。さらに、人とのつながりの中で技術や知識を磨くことの重要性を知った」。

23歳で帰郷し就農すると、すぐにSAP会議に入るなど、多くの人とのつながりの実践に努めた。

「今回の発表もSAPや地元の農家などの協力で実現できた。支えてくれた多

くの人に感謝している。そして、みんなで情報交換していくことで見えることがあると改めて感じた」。

同会議の園田悠輔^{そのだゆうすけ}理事長は「優しく、頼りがいがありみんなから慕われている存在。大出水さんだから、みんな協力するのだと思う」とその人柄を称える。

「地域の農業を盛り上げるためには一人の力では困難。これからも、このつながりを大切にして地域に根ざした農業を続けていきたい」。

これからも、明るく、堅実な人柄と技術力で小林の農業を盛り上げていく。



①自作の機械を使う大出水さん。②小林市SAP会議のメンバー。現在、会員を募集中。農業振興課まで(Tel.23-0300)③にっこばまちづくり協議会でブルーベリー栽培。仕事の傍ら、地域活動にも積極的に参加している。